

11月8日（火）皆既月食（+天王星食）が見られるぞ！！

11月8日（火）夜、皆既月食が見られます。皆既月食は月が地球の影に完全に隠されて、赤黒く変色した満月が見られる天体現象です。今回は天王星食も見られるというおまけ付きです。皆既月食が次に見られるのは2025年9月8日の約3年後ですが、皆既月食と惑星食が同時に見られるのは2235年と213年後です。これは見逃す手はありません！勉強の息抜きにぜひ観測してみましょう。

☆いつ、どこで見られる？

今回は日本全国で月食が観測でき、月が地球の影の中心近くを通るため、皆既食の時間が比較的長くなります。東の空あたりで18時09分に部分食が始まり、19時16分あたりで皆既食が始まり、19時59分あたりで食の最大を迎えます。そして20時42分ごろに皆既食が終わり、21時49分部分食が終わります。



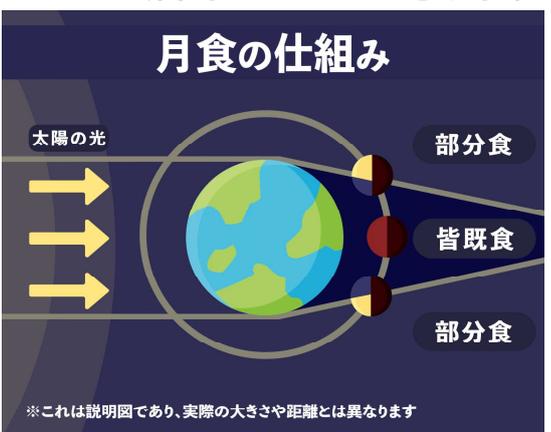
☆天王星食

月食の最中に、月が天王星を隠す「天王星食」が同時に起こります。時刻は地域によって異なります。東京の場合は天王星の潜入（月の後ろに入りこむ）は、20時41分頃、出現（月の後ろから再び出てくる）は21時22分頃です。天王星は約6等と、空が十分に暗い場所で目の良い人がやっと見えるほどの明るさです。天王星に比べて月がはるかに明るいいため、双眼鏡や望遠鏡を使っても天王星を見るのは簡単ではありません。しかし、今回は皆既食が起こることによって月がたいへん暗くなるため、比較的簡単に天王星を観察することができます。



☆月食はどうして起こるの？

地球と月は太陽の光を反射して輝く天体です。地球にも太陽の光による影があり、太陽とは反対の方向に伸びています。この地球の影の中を月が通過することによって、月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が「月食」です。



☆月食はどうして赤いの？

地球のまわりには大気があります。太陽光が大気の中を通過する際、波長の短い青い光は空気分子によって散乱され、大気をほとんど通過することができません。一方、波長の長い赤い光は散乱されにくく、光は弱められながらも大気を通過することができます。これは、朝日や夕日が赤く見えるのと同じ理由です。また、大気がレンズのような役割を果たし、太陽光が屈折されて本影の内側に入り込みます。このかすかな赤い光が皆既食中の月面を照らし、月が赤黒く見えるのです。